

# アセンブリ教育実施要領



アセンブリ教育は専門職連携教育です。専門職連携とは、異なった専門職（他職種）と連携し、患者の健康問題に取り組むことです。単一の専門職だけで医療を行うことは出来ないからです。アセンブリ教育で最も大切なことは、他者を尊敬（リスペクト）する姿勢です。「コミュニケーション」「チームワーク」「患者中心の考え方」「職種間の連携」といった能力を身につけた医療人になってください！

アセンブリ教育センター長  
大槻 眞嗣

## 1. アセンブリ教育

アセンブリ教育は専門職連携教育である。その目的、身につける力、概要等については、アセンブリ教育要綱（別紙）に記載されている。

## 2. 卒業要件

アセンブリ教育は建学の理念に基づき実施される特別教育活動で、単位数には含めないが、卒業に必要な教科であり、アセンブリ教育（アセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ）を修了していないと卒業できない。必要な修了時間は別途定める。但し、アセンブリⅣについては、一部の学生のみが参加する。

※医療科学部及び保健衛生学部の一部の学科あるいは学年では、経過措置として単位認定の教科とする。

## 3. 休講及び補講

休講については、アセンブリ教育センターからの掲示で通知する。但し、天候不良等に伴い、突発的に休講となる場合については、アセンブリⅠ～Ⅳ担当副センター長の判断にて、掲示以外の方法で緊急連絡する場合がある。補講については、アセンブリ教育センターで検討・審議のうえ決定する。

## 4. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、戦略企画の何れかに所属し、アセンブリ教育活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

## 5. 概要

### Ⅰ) アセンブリⅠ

1年次に行うアセンブリ教育活動である。グループワークを中心とした体験学習の活動により、「コミュニケーション」を学ぶ。

#### <アセンブリⅠで身につける力>

##### 「コミュニケーション」

- ・他者を尊敬する（リスペクト）。
- ・他者の話を聴く。
- ・他者に質問する。

- ・自らの学びを振り返る。

## <活動方法>

### 1) 活動内容

#### ①講演会

- ・アセンブリ講演会（医療と献体。特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

#### ②講習

- ・オンライン会議ツール（Microsoft Teams）を利用し、全てオンラインで実施する。
- ・グループワークを通して「他者に関心を持つ」「傾聴する」「質問する」というコミュニケーションの基本を学ぶ体験学習。
- ・2年次以降のアセンブリ活動に向け、チーム作り・チームでの活動の基本について体験する。

### 2) 実施方法

#### ①授業形態

- ・「自分を知る」「他者を知る」「見る」「聴く」「質問する」「チームを作る」等をテーマとしたグループワーク中心の体験学習を行う。
- ・学生は6種類のチーム（Microsoft Teams）に分かれて受講する（ただし、内容は全てのチームで共通である）。
- ・学生はファシリテーター（教員）の指示により、小グループに分かれてワークを実施する。
- ・ワークにおいて自身や他者がとった行動や言動、感じたことなどについて、振り返りを行う。
- ・振り返りの内容について、グループ内もしくはチーム内で共有する。
- ・2年次のアセンブリⅡで「チームワーク」を身につけるための基盤となる「コミュニケーション」を身につける。

#### ②活動時間

- ・活動時間は毎週月曜日3・4限（医学部においては4・5限・6限の午後4時10分まで）とする。

## <評価法>

コミュニケーション講習とアセンブリ講演会や活動報告会の参加度及び活動内容についての達成度を総合的に評価する。

#### [注意事項]

- ・アセンブリⅠは卒業要件であり、履修を修了していないと卒業できない。
- ・アセンブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・学年全体で行われるオリエンテーション（初回）、アセンブリ講演会、アセンブリⅡの活動報告会は全て出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

## Ⅱ) アセンブリⅡ

2年次に行うアセンブリ教育活動である。チームとして明確な目標を定め、チームのために行動する。「コミュニケーション」を大切にして、「チームワーク」を学ぶ。

## <アセンブリⅡで身につける力>

### 「チームワーク」

- ・チームとしての明確な目標を定める。
- ・チームの目標を達成するために、主体的に行動する。
- ・自らの学びとチームの活動を振り返る。

## <活動方法>

### 1) 活動内容

#### ①講演会

- ・アセンブリ講演会（特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

#### ②活動

- ・チーム単位での活動と全体活動は、オンライン会議ツール（Microsoft Teams）を利用し、全てオンラインで実施する。

### 2) 実施方法

#### ①チーム

- ・複数の学部・学科の学生が所属する1チーム6名の混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、担当教員はチーム活動のプロセスの支援を行う。所属学生はリーダー、サブリーダー、記録など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は複数の学部・学科混成となるようアセンブリ教育センターが決定する。

#### ②活動など

- ・活動時間は毎週月曜日4限（医学部においては5限・6限の午後4時10分まで）とし、全てオンラインで行う。
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、チーム活動と全体活動を交互に実施することで、チーム活動の振り返りを確実にし、次回のチーム活動へ繋いでいく。
- ・「健康問題に関する課題」についてチームで意見を出し合い、合意をしてプロダクトを作り出す。
- ・活動の終盤はチーム活動を通して得たものや活動内容についてチームワークを發揮し、まとめを行う。
- ・活動終了後は、成果発表会を行う。
- ・3年次のアセンブリⅢで「患者中心の考え方」を身につけるためのチーム基盤型学習（Team-Based Learning）の基盤となる「チームワーク」を身につける。

## <評価法>

全体活動とチーム活動の出席、振り返りレポートの提出、担当教員による学生のチーム活動への取り組みに対する評価、学生メンバー同士のピア評価、ポートフォリオの提出等により、総合的に評価する。

### [注意事項]

- ・アセンブリⅡは卒業要件であり、履修を修了していないと卒業できない。
- ・アセンブリⅡは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

## Ⅲ) アセンブリⅢ

3年次に行うアセンブリ教育である。「コミュニケーション」、「チームワーク」を大切にして、

「患者中心の考え方」を学ぶ。教育技法として、チーム基盤型学習（TBL: Team-based Learning）を採用する。

### ＜アセンブリⅢで身につける力＞

#### 「患者中心の考え方」

- 患者<sup>\*</sup>の健康問題を見つける。  
\*地域においては地域住民、老人保健施設・福祉施設においては利用者となる。
- 全人的に理解する<sup>\*</sup>。  
\*人（ひと）を身体・心理・社会的立場など、あらゆる角度から理解する。
- 患者の健康問題の解決に向けて取り組む。

### ＜活動方法＞

- 活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で説明する。
- 授業形態としては、オンライン会議ツールによるチーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採用する。
- 学部・学科の異なる約6名の学生で混成チームを作る。
- 学部・学科の垣根を越えて、チームで「患者中心の考え方」を学ぶ。
- 事前説明会で配布する資料を十分に予習して、授業に臨む。配布資料には、「他職種」の紹介も含まれる。「他職種」についての理解が乏しいと「他学科」の学生との話し合いがうまくいかない。
- 1日目の授業は、事前学習資料の理解度を確認する小テストであるiRAT（個人としての準備確認テスト）を行う。その後、同じ問題をチームで話し合って解答するtRAT（チームとしての準備確認テスト）を行う。tRATにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- 2日目の授業は、引き続き応用課題を行なった後に、次回の授業に備えて予習の役割分担を行う。
- 3日目の授業は、応用課題を行った後に、同僚学生による評価（ピア評価）を行う。
- 4日目の授業は、各学科で振り返りを行う。
- 今後の各学科における臨地実習・臨床実習で学ぶ「自職種の役割」、「他職種の役割」、そして、アセンブリⅣで学ぶ「職種間の連携」の基盤となる「患者中心の考え方」を身につける。また、「他職種」についての理解を深める。

### ＜評価法＞

事前説明で配布された予習資料の内容を充分理解しているか否かを確認する個人テスト（iRAT）、チームテスト（tRAT）、応用課題の成果物、ピア評価などのTBLにおける評価、オンライン学修における受講態度、そして、学科別の振り返り等より、総合的に評価する。なおピア評価を行う際、「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者中心の考え方」といった専門職連携を行う上で必要となる能力を考慮する。

#### [注意事項]

- アセンブリⅢは卒業要件であり、履修を修了していないと卒業できない。
- 欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- 休講の決定及びその補講は別に定める。

#### Ⅳ) アセンブリⅣ

4年次（医学部は6年次）に行うアセンブリ教育である。アセンブリⅠ～Ⅲで身につけた「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者中心の考え方」を活かして、医療現場における「職種間の連携」の大切さを学ぶ。

##### <アセンブリⅣで身につける力>

###### 「職種間の連携」

- 異なる専門職（他職種）と連携することの大切さを理解する。
- 医療現場における専門職連携を理解する。

##### <活動方法>

- 参加学生は、医学部6年生、医療科学部4年生、保健衛生学部4年生とする。
- 異なる学科の学生がチームを作り、医療現場にて活動し教室に戻って振り返る。  
但し、新型コロナウイルス感染状況により、オンライン授業に切り替える可能性がある。
- 担当教員と参加する学生が意見を交換しながら活動内容を計画する。